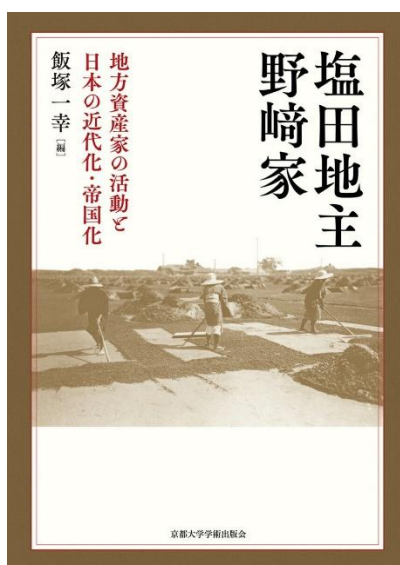


2025年度 出版助成図書



『塩田地主野崎家 地方資産家の活動と日本の近代化・帝国化』

飯塚 一幸 他 13名 (松井 望) 編著

京都大学学術出版会 (2025年12月25日発行)

A5上製・642頁

ISBN 9784814006243

¥15,400 (税込)

<目次>

序章 本書の課題と構成 [飯塚一幸]

一 野崎家の概要と先行研究

二 地方資産家・地方名望家研究と野崎家

1 大規模豪農から地方名望家へ

2 御救の研究史と富裕者による救済活動

3 資産家資本主義論と野崎家の経営

4 地方名望家研究の進展

5 地方資産家の文化的諸活動

6 地方資産家と日本の帝国化

三 本書の構成

第一部 地域社会の近代化と野崎家

第一章 野崎武左衛門の塩田開発と近世後期地域社会 [定兼 学]

はじめに

一 備前国児島郡における野崎家の塩田開発

- 1 野崎武左衛門の塩田開発着手の頃
- 2 野崎家の塩田開発
- 二 東野崎浜の開発をめぐる諸問題
 - 1 開発着工前の地域的諸問題—胸上村との漁業補償交渉—
 - 2 開発権取得をめぐる問題—中島富次郎との争い—
 - 3 開発着手後に生じた問題
- 三 瀬戸内諸浜・児島郡塩浜と野崎家
 - 1 瀬戸内諸浜と野崎家
 - 2 児島郡塩浜の協定

おわりに

コラム1 重要文化財 旧野崎家住宅 [宮崎健司]

第二章 近世後期における野崎武左衛門の福田新田開発 [山本太郎]

はじめに

- 一 福田新田の開発経緯
 - 1 福田古新田の開発
 - 2 福田古新田前附洲の開発目論見
 - 3 幕府の見分役人の派遣
- 二 柳田村汲五平の新開築立工事
 - 1 柳田村汲五平の福田新田開発計画
 - 2 汲五平の新開築立工事の実態
- 三 野崎武左衛門の新開築立への参入
 - 1 新開築立方への任命
 - 2 野崎武左衛門と汲五平との議定書
- 四 新開請負人の実施工事の具体像と費用負担
- 五 福田新田の土地配分
- 六 野崎家の所持地の変遷と小作地経営

おわりに

コラム2 茶道速水流と野崎家 [宮崎健司]

第三章 幕末・明治初期の野崎武吉郎

—〈児島五人衆〉としての活動から— [伊藤昭弘]

はじめに

- 一 児島五人衆について
 - 1 児島五人衆の履歴
 - 2 児島五人衆の形成と活動

- 二 岡山藩と児島五人衆
 - 1 融通方の展開
 - 2 融通方と児島五人衆
 - 3 岡山藩商社と児島五人衆
- 三 廃藩置県後の児島五人衆
 - 1 池田家と児島五人衆
 - 2 商社設立の目的

おわりに

コラム3 祝事来客記録 [宮崎健司]

コラム4 野崎家のお雛様 [三宅功一]

第四章 近代移行期における野崎家の救済と「貧者」 [東野将伸]

はじめに

- 一 野崎家の役職と家政における貧民救済
 - 1 野崎家の役職と職務
 - 2 野崎家の家政における貧民救済
 - 3 慶応元～明治三〇年（一八六五～一八九七）における野崎家への褒賞
- 二 幕末期の救済と「貧者」・「貧民」
- 三 明治初期の救済と「貧者」・「貧民」
- 四 明治一〇年代以降における「貧者」・「貧民」と救済

おわりに

第五章 野崎武吉郎と三島中洲からみた明治期の地方名望家と漢学者 [町泉寿郎]

はじめに

- 一 幕末期における野崎家と山田方谷・三島中洲の接点
- 二 明治前半期の野崎武吉郎と三島中洲の関係
 - 1 三島中洲の法曹としての経歴
 - 2 田辺為三郎と手島知徳
 - 3 「東野崎濱鹽田碑」
 - 4 『野崎家家則』と『事務取扱規則』の制定
- 三 野崎武吉郎の貴族院議員活動に対する三島中洲の支援
 - 1 貴族院書記官笠井彰と書記官長金子堅太郎の紹介
 - 2 「民法」「商法」に関する議事をめぐって
 - 3 野崎別邸（麴町区五番町）の購入
- 四 その後の野崎武吉郎と三島中洲の関係
 - 1 丹斐太郎の誕生

2 五猿翁西井多吉の顕彰に対する中洲の関与

3 迨暇堂の命名

五 『野崎宗家家法』への三島中洲の関与

六 野崎家と三島家の関係の深まり

1 三島家に対する武吉郎の援助

2 板倉家との縁談

3 海外の塩業調査に対する中洲の支援

おわりに

コラム 5 日下部鳴鶴祝野崎龍山華甲寿 [三宅功一]

コラム 6 華胄絵師稲垣子爵の饗応 [三宅功一]

第六章 初期議会期における多額納税者議員野崎武吉郎の政治活動 [飯塚一幸]

はじめに

一 多額納税者議員選挙と野崎武吉郎

二 第一議会と多額納税者議員

1 野崎武吉郎の要人訪問

2 多額納税者議員仮事務所の設置

3 貴族院での審議と多額納税者議員

4 東京邸の買取

三 貴族院会派の形成と多額納税者議員

1 地価修正派による多額納税者議員への働きかけ

2 貴族院における会派形成の進展

おわりに

第七章 帝国議会開設後の地方政治状況と多額納税者議員 [久野洋]

はじめに

一 「吏党」的志向

1 第一回総選挙

2 第二回総選挙

3 県知事との連携—災害土木費国庫補助獲得運動—

二 「超然主義」から「対外硬」へ

1 第三回総選挙と「超然主義」

2 第四回総選挙と対外硬運動

三 進歩党勢力と野崎家グループ

1 野崎定次郎と田辺為三郎の政界進出

2 県会での多数派形成

おわりに

第八章 近代における地方資産家の動向と地主制 [落合功]

はじめに

- 一 近代岡山県下における地主の動向と野崎家
- 二 明治期における野崎家の経営
 - 1 地主経営（田畑宅地貸付所得）
 - 2 塩業経営
 - 3 その他
- 三 戦間期における野崎家の資産動向
 - 1 野崎家資産の動向
 - 2 地主経営
 - 3 業経営

おわりに

コラム7 明治二七年頃の味野村 [前田昌義]

第二部 日本の帝国化と野崎家

第一章 明治期の食塩直輸出運動と野崎武吉郎 [中川未来]

はじめに

- 一 中国市場への輸出運動とその挫折
 - 1 政府への働きかけと市場調査の実現
 - 2 中国製塩認識の形成
- 二 ロシア沿海州・朝鮮市場の開拓
 - 1 海外市場情報の流通と中国製塩認識
 - 2 朝鮮市場への進出と朝鮮製塩認識の形成
- 三 直輸出運動の帰結
 - 1 日清戦争と食塩輸出の政治問題化
 - 2 遼東半島の塩業調査とその衝撃

おわりに

第二章 日清戦争と多額納税者議員

—野崎武吉郎の動向を中心に— [飯塚一幸]

はじめに

- 一 野崎武吉郎と近衛篤磨の関係の深化
 - 1 近衛篤磨の岡山漫遊
 - 2 第四回総選挙

- 3 近衛篤磨と京都鉄道会社
- 二 艦艇引揚事業
 - 1 前提
 - 2 沈没船引揚事業の展開
 - 3 引揚事業の実施
- 三 清への塩輸出を目指して一大日本塩業同盟会の成立—
おわりに

コラム8 近衛家からの到来品 [宮崎健司]

第三章 野崎家の育英事業と中国へのまなざし [中川未来]

はじめに

- 一 「地方」から「支那」へ
 - 1 荒尾精の「貿易誘導者」育成構想
 - 2 「貿易誘導者」白岩龍平の誕生
- 二 東亜同文書院への留学生派遣
 - 1 「田舎青年」と「支那」
 - 2 対外硬運動と「田舎青年」
 - 3 日清戦後経営と東亜同文書院
- 三 「支那研究者」の養成
 - 1 「実学研究」としての「新漢学」
 - 2 義和団戦争と中国経験
 - 3 「北方支那」への着目

おわりに

第四章 日清戦争後の対清事業と野崎家

—白岩龍平と大東汽船会社を中心に— [望月みわ]

はじめに

- 一 白岩龍平による長江航路への参入
 - 1 野崎家史料から見る白岩龍平の日清貿易観
 - 2 大東新利洋行の設立
- 二 大東汽船合資会社設立と野崎家・岡山県人
 - 1 郵便保護費の獲得
 - 2 大東汽船合資会社設立の運動
 - 3 命令実施に向けた資金調達
- 三 大東汽船会社の経営に対する野崎家の援助
 - 1 田辺為三郎の活動と株式会社化
 - 2 湖南航路参入の運動と野崎家・田辺

3 株式募集の実態

おわりに

第五章 義和団戦争と野崎家

―手島知徳と田辺為三郎の渡清を中心に― [久保田裕次]

はじめに

一 日清戦後の国家的保護

- 1 日清戦争の影響
- 2 輸入塩の増大と台湾塩・中国塩
- 3 大東汽船の株式会社化

二 義和団戦争の発生と中国認識

- 1 湖南航路の開設計画
- 2 清朝による宣戦布告後

三 連合軍による北京占領後

- 1 手島の渡清
- 2 田辺の渡清
- 3 手島の再渡清

四 義和団戦争後における湖南航路と塩業

- 1 湖南汽船会社の設立
- 2 塩専売論

おわりに

コラム9 売用日記 [三宅功一]

第六章 塩専売法の成立

―一九〇三年～〇五年 政界・官僚・塩業界・世論― [落合功]

はじめに

一 塩専売法案の提案

- 1 塩業界の動向―大日本塩業協会総会での議論―
- 2 塩専売法案の提出―第二〇回帝国議会（明治三七年三月二〇日―三月二九日）
- 3 議会閉会中―塩専売法案反対運動の展開と大日本塩業同志会の成立―

二 塩専売法の成立

- 1 塩専売法案賛成へ―政府・立憲政友会・憲政本党―
- 2 第二一回帝国議会（明治三七年一月三〇日―明治三八年二月二七日）の開催
- 3 秋良貞臣と井上甚太郎

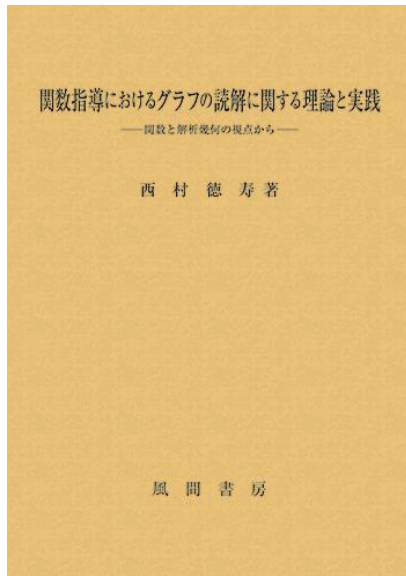
三 塩専売法の成立後の塩業界と野崎家

- 1 大日本塩業協会存廃問題
- 2 塩専売法細則の制定と塩賠償価格問題

おわりに

あとがき

索引



『関数指導におけるグラフの読解に関する理論と実践』

西村 徳寿 著

株式会社風間書房（2026年3月25日発行）

A5判／170頁

ISBN 9784759925685

¥6,050（税込）

<目次>

第I部 理論編

第1章 問題の所在と目的・方法

- 1.1 関数指導の現状と課題
- 1.2 研究の目的及び方法

第2章 関数分野のグラフ読解に関わる先行研究

- 2.1 関数分野のグラフの2種類の読み
- 2.2 関数分野のグラフ読解に関わる先行研究の整理
- 2.3 第2章のまとめ

第3章 関数分野のグラフ読解を捉えるための理論

- 3.1 概括的理論
- 3.2 個別的理論
- 3.3 第3章のまとめ

第4章 変量の線分化に焦点をあてた指導の基本設計

- 4.1 変量の認識を高めるための視点
- 4.2 変量の認識を高めるための授業過程
- 4.3 授業過程の意義

- 4.4 第4章のまとめ
- 第5章 関数としてのグラフ読解
 - 5.1 正比例関数と一次関数の相違
 - 5.2 事象の動きと一次関数のグラフとの関係
 - 5.3 斉次一次関数のグラフ読解
 - 5.4 区分的一次関数のグラフ読解
 - 5.5 第5章のまとめ
- 第6章 解析幾何としてのグラフ読解
 - 6.1 中高連携の視点
 - 6.2 解析幾何的視点を考慮した指導の基本設計
 - 6.3 第6章のまとめ
- 第7章 本研究の総括と今後の課題
 - 7.1 本研究の総括
 - 7.2 今後の課題

- 第Ⅱ部 実践編
 - 第1章 変量の線分化に焦点をあてた指導の具体例
 - 1.1 正比例関数の性質
 - 1.2 変量とその対応
 - 1.3 変量の数値化
 - 第2章 解析幾何的視点を考慮した指導の具体例
 - 2.1 座標と座標平面
 - 2.2 解析幾何のグラフとしての「ねこの顔」の読解
 - 2.3 関数グラフソフト GRAPES を使った「ねこの顔」の構成

あとがき

引用・参考文献